



美濃菊展



同時企画

菊人形展示

美濃菊俳句展示

折り紙体験



2023

10.29(日) 11.2

10:00~15:00 ー まで展示

一部作品は

会場：羽島市役所 本庁舎1階
(岐阜県羽島市竹鼻町55番地)

令和四年度 羽島美濃菊展
(個人の部) 美濃菊大賞
岐阜県知事賞 渡辺 恵子(正木町)

主催／羽島美濃菊展実行委員会 共催／羽島市 後援／羽島市教育委員会
問い合わせ先／羽島美濃菊展実行委員会事務局(羽島市農政課内)(TEL 058-392-1111 内線2623・2641)

美濃菊のあまし

美濃菊は、今から約200年前、現在の羽島市北部に自生していた野生菊の一種で、花は今日見られるような大輪ではなく、中輪型でした。市の特産園芸品として、現在の雅やかな大輪の美濃菊に改良し、世に出した人は、正木町の太田正吾氏といわれています。

同氏は明治12年、16歳のときに、この地方にも名菊をつくらうと思い立ち、関東や関西の菊花大会をまわって研究を重ねました。目標としたのは、京都方面で愛好されていた一文字菊と在来の美濃菊とを交配させた「蓮^{はす}」の花に似た新種で、92歳で亡くなるまで約76年にわたって品種改良に尽力し、今日の美濃菊を完成させました。こうして完成した美濃菊は、優雅な大輪を誇るとともに、大変珍しい丸花卉を有することでも有名になり、遠くは東京、京都方面からも珍菊として讃えられるようになりました。これまでに天皇陛下や皇族をはじめ、総理大臣・各大臣に献上した名品も多数あります。

その後、昭和27年に美濃菊の普及と継承を目的として愛好者による羽島市美濃菊保存会が組織され、昭和48年、その清らかで優雅な姿と原産地の縁から「市の花」に制定されました。現在も、原産地の正木町を中心に市内各地で広く親しまれ栽培されています。

